

追悼

鶴田四郎先生を偲んで

ネットワークポリマー編集委員長 遠藤 剛
(近畿大学分子工学研究所 所長・教授 (副学長), 東京工業大学名誉教授)

ネットワークポリマー誌の編集委員会の顧問、鶴田四郎先生が、4月17日に永遠の眠りにつかれました(享年100歳)。心より哀悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。鶴田先生は明治43年のお生まれで、昭和9年東京大学理学部化学科をご卒業、同年(株)日立製作所に入社され、電気絶縁用フェノール樹脂の学問的研究に着手されました。学位論文“高重合体に関する研究”ではレゾール型フェノール樹脂を主体としてまとめられ、昭和20年東京大学より理学博士を授与されました。

その後、昭和37年に独立した日立化成工業(株)に移られ、企業人の立場で開発研究に励まれました。一方で、鶴田先生は、故・井本稔(いもとみのる)氏、故・大島敬治(おおしまけいじ)氏とともに、我が国の熱硬化性樹脂草創期におけるリーダーであり、この三博士が1951年(昭和26年)に、第1回フェノール樹脂学術討論会を立ち上げられました。ちなみに、第1回の発表件数は10件。第1回のご発表には、鶴田四郎の「乳化現象について」(フェノール樹脂の反応に関する発表)もありました。その学術討論会は、1955年(昭和55年)の第5回より「熱硬化性樹脂講演討論会」という名称になり、1996年(平成8年)より「ネットワークポリマー講演討論会」に名称変更し、我が国の熱硬化性樹脂の草分け的存在として、学術活動を牽引してきました。

この討論会が第20回を迎えた1970年(昭和45年)に、合成樹脂工業協会は長年の功労をたたえ三氏を表彰いたしました。三氏はそのお礼として私財を寄付され、討論会の内容をより学問的に高め、若手研究者の育成願ってIOT賞を設けられました。Iは井本博士、Oは大島博士、Tは鶴田博士です。

学術誌ネットワークポリマーの創刊は1980年(昭和55年)です。本年で32年目になりますが、創刊号に鶴田先生の総説「合成樹脂化学史ノート Pクレゾール・ノボラック研究の優先問題」を寄稿していただいています。その後、平成元年まで「合成樹脂化学史ノート」として寄稿いただきました。その内容は世界における熱硬化性樹脂発展の姿そのものであり、貴重な学術文献です。その後、鶴田先生のご指導のもと、合成樹脂は狭義の「熱硬化性樹脂」ばかりでなく、光硬化型樹脂、重合系の架橋性高分ゲルなどを含むあらゆる架橋性高分子を「ネットワークポリマー」という広い概念でとらえ、原料、応用加工、分析・物性、環境対応技術など、周辺分野を含めた技術・学術領域が研究し議論する対象となって発展してきました。

昨年(2010年)の第60回ネットワークポリマー講演討論会で、先生のご研究の成果と後進へのご指導の御礼を込めて功労賞をお贈りいたしました。ネットワークポリマー材料が世界をリードするまで発展し、本討論会の場で産学一体となって基礎研究を進め共有してきた賜物であり、鶴田先生の貢献は多大なものでございます。長年のネットワークポリマー業界へのご貢献とご功績に対し心から尊敬と感謝を申し上げます。